NaviTabi 安全管理イベント向け

安全管理イベント運営チェックリスト【1/4：電波の確認・運用ルール・設定】

▼ STEP 0：最初に決めてスタッフで共有する「安全管理の運用ルール」

該当する選択肢を残して編集してください。位置もSOSも携帯電話の電波で届くので、使うと決める前に、使うエリアの電波を確かめてください（#1）。NaviTabi の安全管理機能は、無線・電話・巡回・救護などの安全体制に足して使うもので、置き換えるものではありません。参加者には「03 参加クイックガイド（安全管理・位置共有版）」を配ります。

① 使う範囲	参加者：【 全員 ／ ○○クラスだけ ／ 希望者 】 スタッフ：【 運営者として共有する★ ／ 共有しない 】	※安全管理イベントは位置の共有とSOSだけのイベントで、競技のクラスごとにオン・オフする設定はない。使ってほしい人にだけイベントと番号を案内する。スタッフは運営者に追加して、運営者の位置共有を使う（#17）。参加者と同じ手順で共有すると、プレイ枠を使い、参加者と見分けが付かない。
② 見せ方と送信間隔	ライブマップ：【 運営だけ ／ 全員に公開 】 参加者の画面の地図：【 表示しない ／ 表示する 】 位置情報送信間隔：【 1分 ／ 3分（既定） ／ 5分 】	※オリエンテーリングやロゲイニングでは、公平のため、どちらの地図も見せない設定が向く。トレイルランなど自分の位置を見ながら進む種目では見せてよい。間隔が短いほど電池を使う。
③ 番号と受付	エントリー番号：【 入力必須★ ／ 任意 】 名簿：【 CSVで取り込む★ ／ 取り込まない 】 受付：【 参加受付QR★ ／ 番号を口頭で伝える 】	※参加受付QRと名簿CSVの取り込みは、エントリー番号の入力必須が前提。名簿の表示名が自動で入るのは受付QRを通ったときだけで、運営から個別メッセージを送るときも受付QRが要る（#23）。
④ 責任者と連絡手段	安全責任者：【 ○○ 】 ／ 通報を判断する人：【 ○○ 】 本部の電話：【 ○○ 】 本部と巡回スタッフ：【 無線 ／ 電話 ／ グループ通話 】	※本部のPCの運営コンソールでも、SOSの解除・強制終了・メッセージの送信ができる。回線が落ちたときに備えて、アプリのモニタリング画面も開ける人を本部に置く。
⑤ SOS・エリア違反の初動	現地へ向かう巡回スタッフ：【 ○○ 】 本人に電話する人：【 ○○ 】 エリア違反：【 戻るよう連絡する ／ 競技上の扱いは○○が決める 】	※SOSとエリア違反は、所有者・管理者・運営者全員のスマホにプッシュ通知で届く。競技中の参加者は電話に気づきにくく、圏外のこともあるので、巡回スタッフを向かわせる手配を先にする。アプリはエリア違反で減点や失格をしない。
⑥ 未帰還のときの手順	確認を始める：【 終了○分後 】 捜索を始める：【 ○分後（日没○時○分） 】 捜索に持っていく情報：【 最後の位置と時刻・連絡先・危険箇所 】	※画面の位置には誤差と時刻のずれがある。表示だけで決めず、現地での確認と電話を組み合わせる（ヘルプ「安全管理と未帰還対応」）。捜索を始める時刻は、日没から逆算する。

PHASE 1　3〜2週間前　電波の確認・使う範囲とプレイ枠・イベントの作成と設定

エリアの電波を確かめて使うかを決め、安全管理イベントを作って見せ方・番号・エリア・メッセージを設定する段階

	#	分野・区分	準備項目（タスク） ＆ 安全管理×NaviTabi 運用の実務ポイント	推奨担当	担当者・期限
☐	1	電波の確認 NaviTabi最重要	**使うエリアの電波の確認と、導入の判断** 位置もSOSも携帯電話の電波で届くので、導入できるかはエリアの電波でほぼ決まる。コースの尾根・谷・林の中で、複数の携帯会社の端末を使って電波を確かめ、圏外の区間を地図に書き込む。圏外が長く続くエリアでは、使うのをやめるか、巡回と無線を厚くして補う。	コース担当 安全責任者	担当： 期限：　/
☐	2	範囲と体制 一般運営	**安全管理を使う範囲と、体制・役割分担の決定** STEP 0 ① で使う範囲とスタッフの共有を決める。4ページ目の役割と兼務のモデルケースを参考に誰が受け持つかを決め、受け持てない役割はNaviTabiの有償サポートなどに相談する。無線・電話・巡回・救護の体制はそのまま残し、NaviTabi はその補助として使う。#1 で分かった圏外の区間と危険箇所に、巡回スタッフの持ち場を合わせる。	統括責任者 安全責任者	担当： 期限：　/
☐	3	プレイ枠 NaviTabi必須	**イベント主催者プランの要否と、プレイ枠の見積もり** プレイ枠は1日・1イベント10プレイまで無料で、共有を始めた人ごとに1枠を使う。同じ人が同じ日（朝6時に切り替え）に止めて始め直しても数えないが、枠が0になると始め直しもできない。試しの分も入れて見積もり、足りなければ前もって買う。運営者の位置共有（#17）は数えない。エントリー番号の入力必須（参加受付QRと名簿CSVの前提）、運営者の追加、終了時のURL、メッセージの送信制限にはプランが要る。	アプリ担当	担当： 期限：　/
☐	4	イベントの作成 NaviTabi最重要	**安全管理イベントの作成と、見せ方・送信間隔の設定** アプリの「イベント新規作成」→「安全管理イベントを作成」か、Webの「イベント作成」で「安全管理」を選んで作る。名称・国・地域・開催日と、場所（地図の中心と半径）を入れる。ライブトラッキングの強制、結果とライブマップの非表示、他の参加者の非表示は自動でオンになる。イベント設定で STEP 0 ② の「位置情報送信間隔」「参加者の画面に現在地を地図表示する」「ライブマップを全員に公開する」を決める。設定は共有を始めた時点で取り込まれるので、受付までに確定する。	アプリ担当	担当： 期限：　/
☐	5	番号と受付 NaviTabi推奨 条件付	**エントリー番号と受付の設定** STEP 0 ③ に沿って「エントリー番号の入力を必須にする」★を決める。オンにすると「参加受付QR」が使え、名簿CSVを取り込んでおけば受付で番号から表示名が自動で入る。番号は重ならないように1人に1つにする。	アプリ担当 総務担当	担当： 期限：　/
☐	6	エリアの設定 条件付	**競技エリア・立入禁止エリアの設定（任意）** ダッシュボードの「競技エリア・立入禁止」で、崖・増水しやすい川・私有地などを囲む。立入禁止エリアは、スタートやフィニッシュへの誘導路と重ならないように引く。重なると、そこを通る人の分まで通知が届く。参加者がエリアの外か立入禁止エリアに10秒以上いると、本人の端末に警告が出て、運営の全員にプッシュ通知が届く。続いている間は5分ごとに、戻ったときにも届く。	コース担当 安全責任者	担当： 期限：　/
☐	7	メッセージ・URL NaviTabi推奨	**メッセージの設定と、終了時に開くURL** 個別メッセージを使うなら「イベント運営者との個別連絡を有効にする」をオンにする（プラン不要）。大人数なら「イベント内メッセージの送信を主催者のみに制限」★もオンにする。到着報告やアンケートを集めるなら、Googleフォームなどで作ったURLを「プレイ終了時に開くURL（アンケートなど）」★に入れる。参加者が自分で共有を止め（開始から3分以上たっていたとき）、振り返りの画面を閉じるときに開く案内が出る。	アプリ担当	担当： 期限：　/

安全管理イベント運営チェックリスト【2/4：事前テスト・案内・開始まで】

PHASE 2 1週間前〜前日 運営メンバー・事前テスト・参加者への案内・名簿と本部の準備・イベントの公開

運営メンバーをそろえ、主催者側と参加者側で動きを確かめ、参加者に使い方を伝え、名簿と本部の機材をそろえてからイベントを公開する段階

	#	分野・区分	準備項目（タスク） & 安全管理×NaviTabi 運用の実務ポイント	推奨担当	担当者・期限
☐	8	運営メンバー NaviTabi最重要	**運営メンバーの追加と、スタッフへの説明の準備** 監視と連絡を受け持つスタッフと巡回スタッフを、アプリの「準備（Androidは「配布準備」）＞管理者を追加」から「イベント運営者」で追加する（追加には主催者プランが要る）。巡回スタッフの位置は運営者の位置共有で地図に出せる（#17）。SOSとエリア違反は所有者・管理者・運営者の全員のスマホに届くので、全員にアプリへログインして通知を許可しておくよう頼む。アプリ担当は、受付で共有の開始を手伝うスタッフに、03 クイックガイドに沿って共有の開始・SOS・停止の説明の流れとよくある質問を伝え、#9 の事前テストのときに一緒に試してもらう。担当と連絡先は「08 スタッフ役割分担表」にまとめておく。	アプリ担当	担当： 期限： /
☐	9	事前テスト NaviTabi最重要	**主催者側と参加者側での事前テスト** 本番と同じ端末で、共有の開始、モニタリング画面への表示、SOSの送信と解除、停止までを試し、エリアの警告と運営への通知、参加者の画面の見え方、巡回スタッフの位置が地図に出るか（共有のボタンが出るか）も確かめる。ダッシュボードには主催者が試すための入口が無く、非公開のイベントは開けないので、試すときはイベントを一時的に公開し、終わったら「非公開にする」で戻す。試しの共有でも1人に1枠を使う（「現在地共有テスト」は数えない）。	アプリ担当 安全責任者	担当： 期限： /
☐	10	参加者への案内 NaviTabi必須	**参加者への事前案内（03 クイックガイド）** 「03 参加クイックガイド（安全管理・位置共有版）」に大会名・番号・本部の電話番号を入れて配る。アプリのインストール、位置情報の許可、省電力モードをオフにすること、開始と停止の方法、SOSの出し方を事前に伝える。携帯電話（充電したもの）と予備のモバイルバッテリーは必携装備にし、圏外の区間では位置もSOSもすぐには届かない（SOSは電波が戻ると自動で送られる）ことも伝える。地図を見せない設定なら、画面に地図が出ないのは正常（終了後は自分の軌跡を振り返れる）と書いておく。	総務担当 アプリ担当	担当： 期限： /
☐	11	番号表・名簿 一般運営	**番号表と、帰還確認用の名簿** 参加者の番号を重ならないように決め、スタートリストや掲示に載せる。本部用に、番号・名前・携帯電話番号・帰還の印を書ける紙の名簿を作る。名簿CSVを使うなら、先にアプリ担当が取り込んでおく。	総務担当 アプリ担当	担当： 期限： /
☐	12	本部の機材 一般運営 NaviTabi必須	**本部の機材と、予備の画面** 本部のPCと回線で運営コンソールが開けるか確かめる。SOSの解除・強制終了・メッセージはコンソールでもできるが、回線が落ちたときのためにアプリのモニタリング画面も開けるようにする。充電器などは「09 機材・資材チェックリスト」で確かめる。	アプリ担当	担当： 期限： /
☐	13	イベントの公開 NaviTabi最重要	**設定の見直しとイベントの公開（当日朝まで）** 安全管理イベントには公開前チェックが無いので、送信間隔・地図の表示・エントリー番号・エリアを自分で見直してから、所有者か管理者がダッシュボードのヘッダーの「公開する」で公開する。非公開のままでは参加者は共有を始められない。	アプリ担当	担当： 期限： /

PHASE 3 当日 開始まで 本部の立ち上げ・受付・共有開始の確認・巡回スタッフの共有

本部で監視の画面を開き、受付で番号を確かめ、スタート前に参加者と巡回スタッフが共有を始めたかを見る段階

	#	分野・区分	準備項目（タスク） & 安全管理×NaviTabi 運用の実務ポイント	推奨担当	担当者・時刻
☐	14	本部の立ち上げ NaviTabi必須	**運営コンソールとモニタリング画面の立ち上げ** スマホかタブレットでダッシュボードの「ライブトラッキング」（モニタリング画面）を、本部のPCで運営コンソールを開く。スタッフ全員がアプリにログインしていて、SOSのプッシュ通知を受け取れるかを確かめる。	アプリ担当 （本部）	担当： 時刻： :
☐	15	受付・番号 NaviTabi推奨	**受付と番号の確認** 参加受付QRを読んでもらうか、番号を伝える。番号を入れ間違えた人は、モニタリング画面のメニューの「エントリー番号の更新」か運営コンソールで直せる。紙の名簿に出走の印を付ける。	総務担当 当日スタッフ	担当： 時刻： :
☐	16	共有開始の確認 NaviTabi最重要	**共有の開始と、操作の説明** スタート前に、イベントを開いて「現在地共有テスト」から「現在地共有を開始」→「開始する」まで進めてもらい、モニタリング画面に全員が緑で出ているかを見る。SOSは「長押しで通知」→「SOSを送信」で出すこと、終わったら「長押しで停止」→「停止する」で止めること、誤ってアプリを閉じたら開き直せば共有が戻ること、Androidでは「現在地共有中」の通知を消さないことを伝える。	当日スタッフ （操作サポート） アプリ担当	担当： 時刻： :
☐	17	スタッフの共有 NaviTabi推奨 条件付	**巡回スタッフの位置の共有** 巡回スタッフは運営者に追加し（#8）、イベント画面の「運営者モードへ切り替え」から「現在地を他の運営者と共有する」で共有を始めてもらう。このボタンは所有者・管理者・運営者が合わせて2人以上いるときに出る。プレイ枠は使わず、モニタリング画面の地図に運営者として出る。参加者と同じ手順で共有するとプレイ枠を使い、参加者と見分けが付かないので避ける。	アプリ担当 巡回スタッフ	担当： 時刻： :

安全管理イベント運営チェックリスト【3/4：競技中の監視と初動】

PHASE 4 当日 競技中 監視・巡回スタッフとの連携・SOS・エリア違反・位置の途絶・連絡

モニタリング画面で気になる人を見つけ、巡回スタッフと連携して、SOS・エリア違反・位置の途絶に対応する段階

	#	分野・区分	準備項目（タスク） & 安全管理×NaviTabi 運用の実務ポイント	推奨担当	担当者・時刻
☐	18	監視 NaviTabi必須	**モニタリング画面で気を配るところ** SOSとエリア違反（「外」「禁」のバッジ）の人は一覧の上に並ぶ。赤やオレンジの人、電池の少ない人、圏外の区間にいる人にも気を配る。色の意味は下の見方のとおり。	アプリ担当 （本部）	担当： 時刻：　：
☐	19	巡回スタッフ 一般運営 NaviTabi推奨	**巡回スタッフとの連携** 競技中の参加者は電話に気づきにくく、圏外のこともあるので、様子を確かめるのは巡回スタッフを主にする。モニタリング画面の地図で、対象の人の近くにいる巡回スタッフを探し（#17）、本部から無線かグループ通話で向かってもらう。誰が連絡し誰が動くかを分け、現地で確かめた結果を本部に戻してもらう。	巡回スタッフ アプリ担当	担当： 時刻：　：
☐	20	SOS NaviTabi最重要	**SOSを受けたときの対応** 下の初動に沿って、位置と時刻を確かめ、近くの巡回スタッフに向かってもらう。本人への電話は並行して試すが、つながるのを待たない。対応が済んだら、モニタリング画面のメニューか運営コンソールで「SOSを解除」する（参加者自身の「SOSを解除」でもよい）。内容・対応した時刻・結果を本部で記録する。	安全責任者 アプリ担当	担当： 時刻：　：
☐	21	エリア違反 NaviTabi必須 条件付	**エリア違反の通知を受けたときの対応** 一覧の上に寄った人の継続時間と、地図で戻りつつあるかを見る。長く戻らないときや危険箇所の奥へ進んでいるときは、近くの巡回スタッフに向かってもらい、電話も試す。競技上の扱いは STEP 0 ⑤ のとおり運営が決める。	アプリ担当 （本部）	担当： 時刻：　：
☐	22	途絶・電池 NaviTabi推奨	**位置が届かない人と、電池の少ない人** オレンジや赤の人は、圏外・電池切れ・アプリの終了を疑い、最終受信の時刻とあわせて見る（送信間隔を「5分」にしても色の基準は変わらない）。圏外の区間（#1）にいたなら、抜けるまで待つ。赤のまま戻らないときは、最後の位置の近くへ巡回スタッフを向かわせる。電話は競技中だと気づかれにくい。	アプリ担当 （本部）	担当： 時刻：　：
☐	23	参加者への連絡 一般運営 NaviTabi推奨	**参加者への連絡（イベント内メッセージ・電話）** NaviTabiのイベント内メッセージ（送信はダッシュボードの「一斉メッセージ」から）はプッシュ通知されない。位置共有中の画面を開いている人にだけ、送信から60秒以内にポップアップで出て、ほかの人は自分でメッセージ画面を開くまで気づかない。個別メッセージはプッシュ通知で届くが、運営から送り始められるのはiPhoneの「参加者リスト」で受付済みの人だけ。中止や危険の連絡は、巡回スタッフからの声かけと電話も使い、届いたことを確かめる。	アプリ担当 （本部）	担当： 時刻：　：

🗺️ モニタリング画面の見方（アプリの「ライブトラッキング」）

・**緑**：最終受信から10分未満です。
・**オレンジ**：10〜30分届いていません。圏外や送信の遅れのことが多く、それだけで異常とは決めません。
・**赤**：30分以上届いていないか、まだ一度も届いていません。
・**グレー**：共有を終えた人です。自分で止めた人、強制終了した人、24時間たって自動で止まった人が入ります。
・「外」「禁」のバッジはエリアの外か立入禁止エリアにいる人で、SOSの人とあわせて一覧の上に並びます。

SOS SOSを受けたときの初動

1. 通知かポップアップで気づいたら、モニタリング画面でその人を選び、SOSを出した時刻と位置を確かめます。
2. 地図で近くにいる巡回スタッフを探し、向かってもらいます。
3. 並行して本人に電話します。競技中は気づかれにくく、圏外のこともあるので、つながるのを待たずに2を進めます。
4. 巡回スタッフの報告で、必要なら STEP 0 ④ の人が通報を判断します。
5. 済んだら「SOSを解除」し、内容・時刻・結果を記録します。

・Androidのモニタリング画面は、開く前から出ていたSOSをポップアップしないので、開いたら一覧の先頭を見ます。
・プッシュ通知に出る名前はアカウントの表示名なので、番号で本人を確かめます。

🚧 当日に状況が変わったとき

・作業中の林業や崩れた斜面など、当日に危険が見つかったら、所有者か管理者が「競技エリア・立入禁止」に立入禁止エリアを足せます。共有中の人の端末にもそのまま効きます（電波が届いたとき）。現地にもテープを張り、巡回スタッフを置きます。
・時間内に戻れない人が多そうなら、明るいうちに戻れるよう安全責任者が早めに短縮や打ち切りを決め、巡回スタッフからの声かけと電話で参加者に伝えます。イベント内メッセージはプッシュ通知されず、共有中の画面を開いていない人は気づきません。

NaviTabi 安全管理イベント向け

安全管理イベント運営チェックリスト【4/4：終了の確認・振り返り】

PHASE 5 終了 共有の終了と帰還の確認・未帰還の対応・強制終了・記録

全員が共有を止めて帰ったかを名簿と画面で確かめ、残った人に対応し、記録を残す段階

	#	分野・区分	準備項目（タスク） & 安全管理×NaviTabi 運用の実務ポイント	推奨担当	担当者・時刻
☐	24	共有終了・帰還 NaviTabi最重要	**共有の終了と帰還の確認** フィニッシュしたら「長押しで停止」で止めるよう案内し、紙の名簿に帰還の印を付ける。閉会前に、モニタリング画面で共有中のまま残っている人と、名簿との食い違いがないかを見る。止め忘れは開始から24時間で自動で止まるが、電池切れで止まった人は赤のまま残る。	総務担当 アプリ担当	担当： 時刻：　：
☐	25	未帰還 NaviTabi最重要	**未帰還の人がいるときの対応** STEP 0 ⑥ の手順で、電話をかけると同時に、最後の位置の近くへ巡回スタッフを向かわせる。見つからなければ、最後の位置と時刻、圏外や電池切れの可能性を見て、捜索と通報を判断する。全員の帰還を確かめるまで、本部の担当と捜索に要るスタッフを残す。	安全責任者	担当： 時刻：　：
☐	26	強制終了 NaviTabi必須	**残った共有の強制終了** 帰還を確かめた人の共有が残っていれば、アプリのモニタリング画面のその人の行のメニューか、運営コンソールの参加者詳細パネルで「プレイを強制終了する」を選ぶ。出ているSOSも同時に解除され、参加者の画面には終了したことが出る。帰還の確認を飛ばして使わない。	アプリ担当	担当： 時刻：　：
☐	27	記録と振り返り 一般運営	**記録の保存と振り返り** SOS・エリア違反・電話の記録をまとめ、対応の遅れや電波の届かない場所を次回に回す。アンケートを案内し、使い終わったイベントは非公開にするかアーカイブする。	統括責任者	担当： 時刻：　：

アプリだけに頼れないところ

・圏外では位置もSOSもすぐには届きません。SOSは電波が戻ると自動で送られますが、それまで本部は気づけません。
・誤差の大きい位置や急に飛んだ位置は自動で除かれるので、しばらく動かないように見えることがあります。
・共有は開始から24時間で止まります。それより長い催しでは途中で始め直してもらいます。
・Androidで「現在地共有中」の通知を消したり、アプリをタスク一覧から消したりすると止まることがあります。
・エリア違反で減点や失格は起きません。扱いは運営が決めます。

ログイニングのライブ監視（06）との違い

・カテゴリー・コース・得点や結果はありません。共有を始めた人がそのまま一覧に並びます。
・公開前チェックはありません。設定は自分で見直します（#13）。
・「現在地を他の運営者と共有する」はダッシュボードではなく、イベント画面の運営者モードにあります（#17）。
・SOSは安全管理イベントだけの機能で、運営の全員のスマホにプッシュ通知で届きます。
・強制終了してもDNFのような扱いはなく、参加者はもう一度共有を始められます。

役割と兼務のモデルケース（推奨担当の欄は、この4つと安全責任者・巡回スタッフ・当日スタッフで書いています）

役割	受け持つこと	向いている人
統括責任者	使う範囲と体制、役割分担、開催の判断。当日はスタッフへの指示と、終わった後の振り返り	決定権があり、関係先と話せる人
コース担当（渉外を含む）	エリアの電波と危険箇所の確認、競技エリア・立入禁止の範囲、土地の管理者との調整。当日は巡回	地図が読めて現地を歩ける人、地域とつながりのある人
アプリ担当	安全管理イベントの設定と公開、プレイ枠、名簿の取り込み、運営メンバーの追加と、受付で共有の開始を手伝うスタッフへの説明（#8）。当日は本部のモニタリング画面と運営コンソール	スマホの操作に慣れていて、人に説明するのが苦にならない人
総務担当	参加者への案内、番号表と名簿、受付、帰還の記録	段取りと事務が得意な人

・少人数なら兼務にします。2人なら「統括責任者＋コース担当」「アプリ担当＋総務担当」、3人なら統括責任者が総務担当を兼ねます。安全責任者（SOSや未帰還のときの判断）は、統括責任者かコース担当が兼ねます。当日は受付と巡回に当日スタッフを加え、巡回スタッフは運営者として位置を共有します（#17）。
・アプリでは、統括責任者・コース担当・アプリ担当を所有者か「イベント管理者」、総務担当・巡回スタッフ・当日スタッフを「イベント運営者」で追加します。立入禁止エリアを当日足せるのは所有者と管理者だけです。主催者プランの機能は加入した本人しか使えないので、プランに入る人をアプリ担当にすると、作業を進めやすくなります。
・受け持てない役割は、NaviTabiの有償サポートに相談できます。アプリ担当やコース担当の仕事も、どこまで引き受けるかを相談して決めます（イベントの設定代行、当日のスタッフの派遣・遠隔ヘルプデスクなど）。